



特定非営利活動法人

日本防災士会

No.8
2012

奈良県支部 広報

■新年のご挨拶

新年を迎えるにあたって

奈良県支部 支部長 木本喜信

希望にあふれる平成25年の新春を迎え、心からお喜びを申し上げます。

支部を結成してはや5年目の年を迎えようとしております。平成23年2月には東日本大震災が発生し、東北地方、特に三陸沿岸部は津波によって壊滅的な被害と多数の犠牲者を出すに至りました。また我が奈良県におきましても、同年9月に発生した台風12号の集中豪雨によって、南部奥吉野地方が甚大な被害を受けました。それから既に1年以上が経ち、月日が経つのは早いものだと感じております。

しかしながら東日本大震災による被害のため、昨年11月現在でも、死者15,873名・行方不明2,744名、そして24,858名の方々が避難生活を余儀なくされています。また奈良県におきましても、台風12号に被害により仮設住宅にお住まいの方々も多くおられます。ですから少なくとも防災のボランティアに関わる者としては、おめでとうと言いきにくいのですが、年頭にあたり、まず当支部会員並びに役員の皆様に対しまして、平素の献身的なご活躍に心から厚く御礼申し上げます。

皆様もご存じのとおり、昨年8月の中央防災会議作業部会と内閣府の検討会において、今後発生しうる「東海から九州を震源地とする南海トラフ巨大地震」の死傷者や浸水域などの被害想定が、発表されました。そこでは、関東から九州の太平洋側が最大34メートルの津波と震度7の激しい揺れに見舞われ、最悪のケースでは死者32万人、倒壊・消失建物が238万6,000棟に上り、1,015平方キロメートルが浸水と発表されています。

また、昨年12月には全国地震調査研究推進本部が新たな地震予測を公表しました。それによると、奈良市においては今後30年以内の発生確率が70.2%となっており、近畿の府県庁所在地としては一番高いとされています。

私達は、これに備えなければなりません。

私たち日本防災士会奈良県支部の会員は230名を超え、支部活動も充実してきましたことは、会員の皆様にはもちろん、防災の任にあたる私どもといたしましても大変心強いところです。

こうした事から、県民・地域そして職場等におきましても、災害・事故等に対し何が一番大事か、再度確認し合いたいものです。

1に「自分の命」、2に「頭で覚えるよりも身体で覚える」、3に「危機感を持つ事」この3つが非常に大事であります。

支部会員の皆様には、常に防災知識の向上に努められますようお願いし、また役員のみならず会員の皆様全員に、支部開催の各事業や研修をはじめ、関係各機関等で開催されます研修会への積極的な参加を特にお願いし、新年のご挨拶といたします。



■広域防災訓練

■奈良県防災総合訓練に30名を超える防災士が結集



平成24年9月1日、奈良県と天理市主催の「奈良県防災総合訓練」が、メイン会場の天理教白川地区内広場とサテライト会場の天理丹波市小学校で開催されました。関係機関64団体、参加者1,200名の大規模な訓練となりました。

支部は奈良県から依頼を受け、小学生に対し、サポート事業として、天理丹波市小学校で避難所開設・運営における訓練、ならびに応急手当と災害時の行動について講習と実技指導を行いました。

昨今の震災や水害など大規模災害の被害状況を目の当たりにし、身近に感じているからでしょうか、参加される地

域住民や関係各位はもちろん、小学校の児童にあっても訓練に対する意識の高さを感じました。訓練もより具体的にそして現実的な内容へと、深く広くそれを求める声が増えています。

これからも奈良県支部は、有事の被害を最小限度にとどめるために、地域住民の方々の防災意識を高めると共に、自主防災組織の役割の重要性を認識してもらえるよう働きかけ、「自助」から「互助」「協働」へと地域防災力を高め、自分の命や自分たちのまちを守るために、啓蒙を含めた活動をつづけていくことが使命であると考えています。

(報告者:古瀬博之防災士)

■阪奈道路でトンネル防災訓練

○実施日時:平成24年11月12日 午後11時～11時40分

○実施場所:阪奈トンネル内 大阪行き車線3.27キロポスト 第二ポンプ室前

11月12日の深夜に阪奈トンネル内で実施された合同防災訓練に、支部より、山本防災士・川口防災士・川村が見学参加させていただきました。

この合同防災訓練は、警察・消防・道路管理関係者らが一体となって、トンネル内での有事に備え2年に1度行われており、本番さながらの活動を見ることができました。

阪奈トンネル内には監視カメラが設置されており、生駒市小瀬にある管理事務所内の中央管制室において24時間常時監視され、緊急時には逸早く関係機関に通報することが可能となっています。それと共に、走行中の車両へのラジオ割り込みや電光表示板による災害発生の通知が可能です。

訓練では、大阪府警察本部・奈良県警察本部・東大阪市消防局・奈良市消防局・生駒市消防本部・大阪府立中河内救命救急センター・大阪府道路公社・奈良県道路公社の職員の方々が、道路の規制や初動活動、実際に事故が発生した際に使用する資機材等を使用し、衝突し大破した車両の中から負傷者を救助するなど、普段日常生活では見ることができない救助活動の様子や、車両火災における泡消火の様子を見ることができました。

この訓練のほぼ一カ月後の12月2日には、中央道笹子トンネルで天井板崩落という大惨事が発生しました。残念でなりません。今後、このような事故がおこらない事を願いつつ、亡くなられた方のご冥福をお祈りします。

(報告者:川村哲也防災士)



■地域防災活動

■帝塚山地区で自主防災会防災訓練

～みんなの命は地域で守る！～

去る平成24年10月21日、“みんなの命は地域で守る！”をスローガンに、奈良市帝塚山地区自主防災・防犯会(3400所帯、15自治会)が防災訓練を開催しました。

この訓練は、今回で6回目を数え、地域住民424名が富雄第三小中学校(体育館&グラウンド)で総合訓練に参加しました。またこの訓練には、奈良県支部より、中田防災士を始め、前川・井上・丹羽(奈良市)他6名が参加し、地域住民とともに訓練を行いました。



井上防災士(支部教育・研修部会長)に

よる「台風12号による五條市、十津川村の豪雨災害」についての講演のほか「だんだんベッド」・「てんぷら火災消火実演」・「消火訓練」・「救急救命訓練」・「土嚢作り」等を体験しました。

今年のスローガンのとおり、大人も子供も防災グッズを持って、各自隣三軒に声を掛け合い、家族皆で防災訓練ができました。継続して取り組む事の大事さを実感する訓練となりました。

(報告者:前川輝男防災士)

■三宅町(石見地区)で防災訓練

平成24年11月18日(日)、奈良県高等技術専門校(磯城郡三宅町石見)において石見自治会・自主防災会主催の「避難及び避難所体験訓練」が行われました。この訓練は、三宅町石見在住の池田・田上・中条防災士が中心となって企画し、自治会へ働きかけて実現したもので、奈良県支部からも植村(三宅町)、高木(奈良市)両防災士がファシリテーターとして参加しました。

訓練は、地震発生後、住民が各自で一時避難所へ向い、その後、避難所で過ごすという想定で行われました。この訓練には、住民の方と地区の消防団、婦人会など130名の方が参加し、ひと時ではありますが避難所体験をしました。

当日は、石見自治会が用意したダンボールを使って、体育館での居住エリア作りの体験、非常食の試食・炊き出しなどを体験しました。

支部からは、避難所で起こりえることとして「避難所には300名がいます。しかし、食料は100名分しかありません。どうしますか?」と言った課題を提起する「避難所運営HUG」を簡易版として体験して頂きました。

参加者からは「こんなことまでやんなあかんの?」「いい経験をしました」など好評で、自治会の役員からは「早速、訓練の様子などを広報臨時号に掲載します」と積極的な意見が多く聞かれ、継続した取り組みが期待できる一日となりました。

(報告者:植村信吉防災士)



■地域防災活動

■桜井市ボランティア連絡会が「防災マップ作り」



桜井市ボランティア連絡会議が平成24年 12月1日に市内のボランティア代表を集めて「防災マップづくり」の体験を行いました。

この防災マップづくりは、今年の4月頃から計画されていたもので、桜井市社会福祉協議会を通じて奈良県支部が依頼を受けて計画・立案段階から共同で計画したもので、市内各ボランティアの代表者に各地区で「防災マップ」作りのリーダーになってもらうという目的で行いました。

この日は、桜井市社会福祉協議会に120名の市内のボランティアリーダーが集まり、各グループ単位に目的地(避難所)を設定して「まち歩き」をし、危険個所や役に立つ物や人などを歩いてチェック。その後、用意された地図に落とししていくという作業を行いました。

参加した方は、市内のボランティアリーダーという事もあって、熱心に危険個所チェックや防災マップ作成作業をされ、ワイワイガヤガヤとにぎやかな研修となりました。また、参加者からは、今後、「自分たちの地域でもやりたい！」という意見が多数寄せられました。

このマップ作りには、奈良県支部から木村(御所市)・植村(三宅町)・南上(天理市)・柏田(田原本町)・川村(斑鳩町)防災士の5名が参加し、各地区ボランティアの皆さんと一緒にマップ作りを行いました。

参加した方からは「うちでやるときにも来てくれるの？」などの意見が出され、今後、ボランティアに関わる方々のネットワークに期待が持てる一日となりました。

(報告者:植村信吉防災士)

■支部活動報告

■普通救命講習〈I〉研修会

平成24年10月14日(日)奈良市防災センターにて、日本防災士会奈良県支部主催の教育研究部会による普通救命講習を受講しました。奈良市消防署の方からは、「救命講習普及員の資格を取得し、独自に講習会を開催していくことは大変大切な事です。」と仰っていただきました。

指導員は、支部防災士で普及員資格のある井上教育研修部長・古瀬会計・柏田防災士・高木防災士・松尾防災士が担当し、講義は古瀬防災士が担当しました。

心肺蘇生とAED使用手順を訓練。突然の呼吸・心停止に対して、救急車が来るまで救命処置をするかしないかで、命が助かる割合は倍になります。脳は、心臓が止まると15秒以内に意識がなくなり、3~4分以上そのままの状態が続くと回復困難になるとテキストにも記載されています。私も二十年ほど前、身内で心肺停止の状況があり、懸命に心肺蘇生を行いました。救急車が来るまでの10分すこしが1時間以上に感じ、体力があつたつもりが心身ともに疲労困ぱいした事は今でも忘れません。一刻を争いました。

それと講習参加者は19名でしたが、これでは参加人数が少ないのではと感じます。まだの方は各地域での救命講習に参加していただきたいです。講習修了証にも維持向上のために反復して受講するべしとあり、目安として2年毎となっています。

(報告者:南上勝栄防災士)



■発行日 2013年1月1日

■発行者

日本防災士会奈良県支部 支部長 木本喜信
〒631-0014 奈良県奈良市朝日町 2-395-10

■事務局

日本防災士会奈良県支部 事務局長 植村信吉
〒636-0215 奈良県磯城郡三宅町上但馬 1-5
電話 : 090-8378-1106
E-mail : mail@bousainara.com